

理学療法学科在校生の入学動機についての調査

本多史明*1 藤原 直*1 谷口奈瑠美*1
財津真人*1 吉野裕之*1 佐々木裕司*1

要旨：本研究では、玉野総合医療専門学校（以下、当校）理学療法学科の在校生の入学動機を調査し、National Strength and Conditioning Association（以下、NSCA）認定校導入が当校の入学者数増加に影響を及ぼしたか検討した。調査対象は当校理学療法学科に在籍する新カリキュラム対象の学生 127 名とし、当校への入学を決定付けた動機を 17 項目の中から 1 つ選択させるアンケートを実施した。その結果、理学療法学科全体および男女別、学年別においても入学動機として NSCA 資格取得が多数を占めた。このことから、NSCA 導入は 2020 年度からの入学者数増加に寄与した可能性が示唆された。一方で、NSCA 以外で目立った入学動機は見当たらなかった。今後は NSCA 資格取得の合格実績などでカリキュラムの質を高め、他校との差別化を図るとともに、NSCA に代わる新たな経営戦略を早急に模索し導入することが、安定した学生確保に不可欠である。

キーワード：理学療法学科，入学動機，NSCA 認定スポーツトレーナー資格

はじめに

我が国における 2022 年の合計特殊出生率は 1.26 で、過去最低だった 2005 年と並んだ¹⁾。さらに、同年の出生数は前年比 4 万 875 人減の 77 万 747 人で、1899 年の統計開始以降はじめて 80 万人を下回った¹⁾。出産期にあたる世代の減少に加え、近年は COVID-19 の感染拡大で結婚や妊娠、出産をためらう人が増えたという見方も強く、少子化に拍車をかけている。さらに、リクルート進学総研によれば 2022 年に 112.1 万人だった 18 歳人口は、2034 年には 100.6 万人まで減少すると推定している²⁾。18 歳人口の減少は、高等教育機関である大学、短期大学、専門学校にとって入学者数の減少という法人存続にも関わる重大な問題となっている。

玉野総合医療専門学校（以下、当校）理学療法学科は、高度な専門性を有した理学療法士の養成を教育目標に、2001 年にスタートした 1 学年 40 名定員の 4 年制専門学校である³⁾。開設から 2014 年までは毎年度定員は充足していたが、2015 年頃から受験者数の減少が顕著となり、40 名の定員を満たさない年度も認められるようになった。さらに 2018、2019 年度入学生は定員の 60%程度まで落ち込んだため（図 1）、受験生の確保は喫緊の課題としてその対策の検討が急がれた。

当校は開設当初よりスポーツ系理学療法や地域理学療法に特化したカリキュラムを配置し、当該領域において専門的な知識を持った理学療法士の養成に注力している。この実績を活かすべく、2020 年度の新カリキュラム改定に合わせて、スポーツトレーナー団体である NSCA の認定校として、理学療法士国家資格だけでなく NSCA 認定のスポーツトレ

*1 玉野総合医療専門学校 理学療法学科

ーナー資格（Certified Strength and Conditioning Specialist : CSCS および NSCA Certified Personal Trainer : NSCA-CPT）も取得できるカリキュラムを配置した。理学療法学科学部生における最も興味のある専門領域を調査した研究によれば、スポーツ領域の人気の非常に高いことが明らかとなっている⁴⁾。さらに、当校入学生の入学時面接や業界内のさまざまな情報により、高校生がスポーツ分野に興味があることはある程度予測できることだったため、入学生確保のための戦略の一環として NSCA を柱としたスポーツ系理学療法領域の強化展開、運用に至った。結果として、当学科の 2020 年度入学生は 40 名の定員を満了し、さらにその後の 2 年間も定員を充足することができた。2023 年度は定員を若干下回ったものの、90%以上の入学生を確保することができた（図 1）。

カリキュラム改定のタイミングで展開したスポーツ系理学療法領域、すなわち NSCA 認定校の認定を受けてから 3 年が経過し、4 年目である 2023 年度理学療法学科在校生は一部留年生を除いて全て新カリキュラム対象の学生となった。2020 年度入学生を境に、当学科の在校生は増加に転じたが、この現象が NSCA 導入による影響かどうかは明らかとなっていない。そこで今回、当学科在校生（新カリキュラム対象者）に対し入学動機について調査し、NSCA 導入が入学生増加に寄与したかどうかを検証した。

当学科入学生の増加も直近 4 年の短期的結果であり、近年の 18 歳人口の減少を鑑みれば、今後の長期的な動向としては全く不透明である。在校生の入学動機を調査することは、NSCA 導入の影響を量るだけでなく、今後の学生確保の具体的方策を検討するうえで貴重な資料となり得ることが思料され、この結果を軸として理学療法学科経営戦略の足掛かりとしたい。

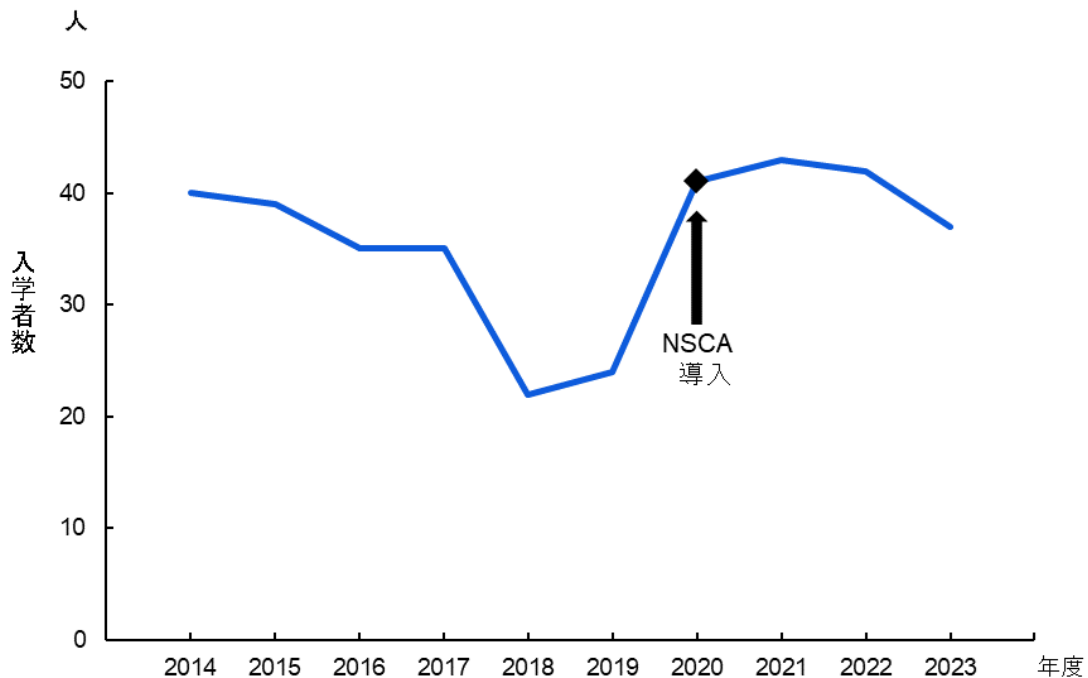


図 1 理学療法学科 入学者数の年次推移

方法

1. 対象と倫理的配慮

2023年度当校理学療法学科に在籍する新カリキュラム対象の学生127名（1年生：39名，2年生：37名，3年生：25名，4年生：26名）を調査対象とした。対象となる学生に対してはヘルシンキ宣言に則り，研究の目的や内容等十分な説明を行い，同意を得た上でアンケートに回答してもらった。なお，研究に参加しない場合においても成績等で不利益を被らないことを保障した。また，アンケートは無記名回答とし，個人が特定できないように連結不可能匿名化とした。なお，本調査にあたっては玉野総合医療専門学校の承認（研究計画番号：2023004）を得て実施した。

2. 入学動機の調査方法

対象者に対し，学年，性別および当校への入学を決定付けた動機を「その他」を含めた17項目（図2）の中から選択させた。選択項目については，大学進学動機尺度などを使用した論文をまとめた研究⁵⁾を参考に，「自律的・内発的」および「他律的・外発的」の2つの大項目に分類した。さらに，「自律的・内発的」の中で「勉学志向」と「正課外活動重視」の2領域，「他律的・外発的」の中で「周囲の評価」および「受験ランク」の2領域に分けた合計4領域で構成した（図2）。領域ごとの質問項目については，文献5の進学動機の概念整理を参考に，理学療法学科の広報活動でPRしている内容や，オープンキャンパスの参加者アンケートの回答結果をベースに，当学科専任教員監修のもと選定した（表1）。3，4年生は入学から相当に時間が経過しているため，それらの時間バイアスを最小限に抑えるべく，設問を「入学を決めたもっとも当てはまる動機」として，回答は1項目のみ選択させた。アンケートはGoogle Formsで作成し，web上にて無記名で回答させた。

自律的・内発的

<p>【正課外活動重視】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動，サークル活動が盛ん ・友人，知人が進学するから ・アルバイトが許されている <p>（享楽志向，機会動機，エンジョイ，学校の副次的機能）</p>	<p>【勉学志向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験合格率高い（全国平均と比較して） ・4年制である（高度専門士の取得） ・NSCA認定トレーナー資格が取得できる ・多様な認定資格が取得できる（NSCA以外） <p>（勉学志向，資格・就職志向，進路・技能獲得動機，学校の本来的機能）</p>
<p>【受験ランク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合格できそうだったから ・受験のしやすさ （AO，指定校など受験機会が多く時期が早い） ・ただなんとなく <p>（学力水準，合格の可能性，無目的・漠然）</p>	<p>【周囲の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生と教員の距離が近い ・就職サポートが充実（就職率100%） ・学費が安い（他校と比較して） ・無料のスクールバスがある ・自家用車通学が可能（敷地内に駐車場がある） ・親や先生などの勧めで <p>（内容充実，社会的評価，経済的条件，実用性）</p>

他律的・外発的

図2 入学動機を選択項目（※文献5の進学動機の概念整理を参考）

表1 入学動機の質問項目

1. 学生と教員の距離が近い
2. 合格できそうだったから
3. 部活動・サークル活動が盛ん
4. 国家試験合格率が高い（全国平均と比較して）
5. 就職サポートが充実している（就職率 100%）
6. 受験のしやすさ（AO・指定校など受験機会が多く，時期も早い）
7. 友人・知人が進学するから
8. 4年制である（高度専門士の称号取得）
9. 学費が安い（他校と比較して）
10. ただなんとなく
11. アルバイトが許可されている
12. NSCA 認定トレーナー資格が取得できる
13. 無料のスクールバスがある
14. 多様な認定資格が取得できる（NSCA 以外）
15. 自家用車通学が可能（学校敷地内に駐車場がある）
16. 親や先生などの勧めで
17. その他

3. データ処理

対象者 127 名のうち，120 名の回答が得られた（回答率 94%）．得られたアンケート結果から回答した各項目の度数の割合を算出し，全体および性別，学年毎に棒グラフで示した．

結果

解析対象者（120 名）の内訳は 1 年生が 35 名（回答率 90%），2 年生が 35 名（回答率 95%），3 年生が 25 名（回答率 100%），4 年生が 25 名（回答率 96%）であった．

解析対象者全体で質問項目 12 の NSCA（NSCA 認定トレーナー資格が取得できる）を選択した回答は 35.8% となり，多くを占める結果となった（図 3）．さらに，男性・女性，各学年全てでも NSCA を選択した回答が多い結果となった（図 4～9）．

また，全体では項目 9 の学費（他校と比較して学費が安い）および項目 8 の 4 年制（4 年制で高度専門士の称号取得）がそれぞれ 10.8%，項目 4 の合格率（全国平均と比較して国家試験合格率が高い）が 10% となり，NSCA に続いた（図 3）．

n=120

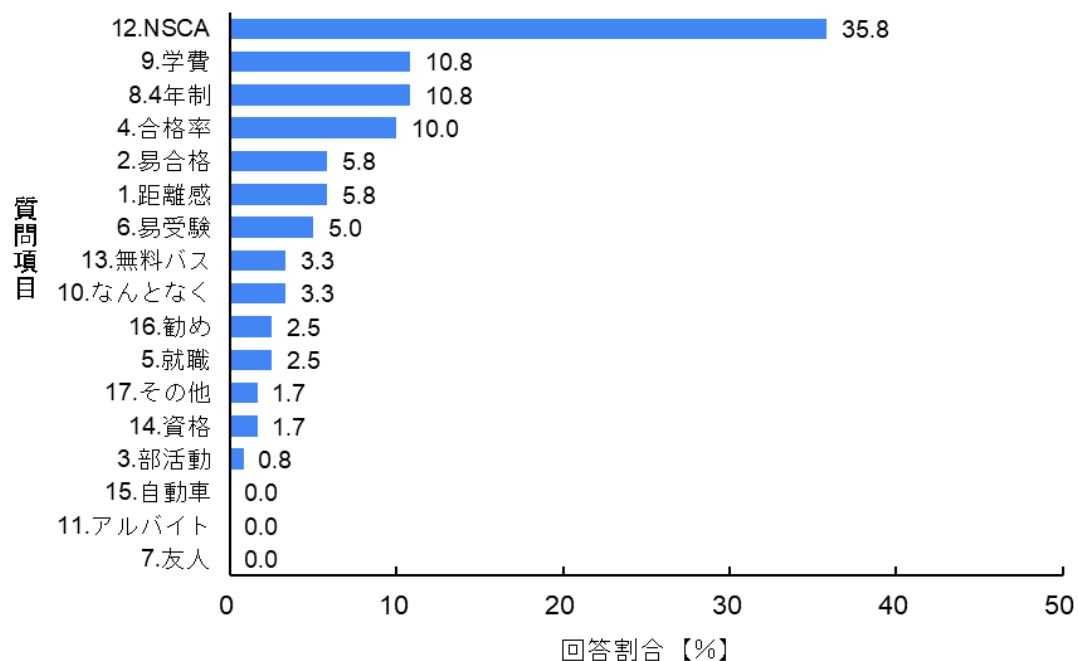


図3 入学動機の項目別回答割合(全体)

n=69

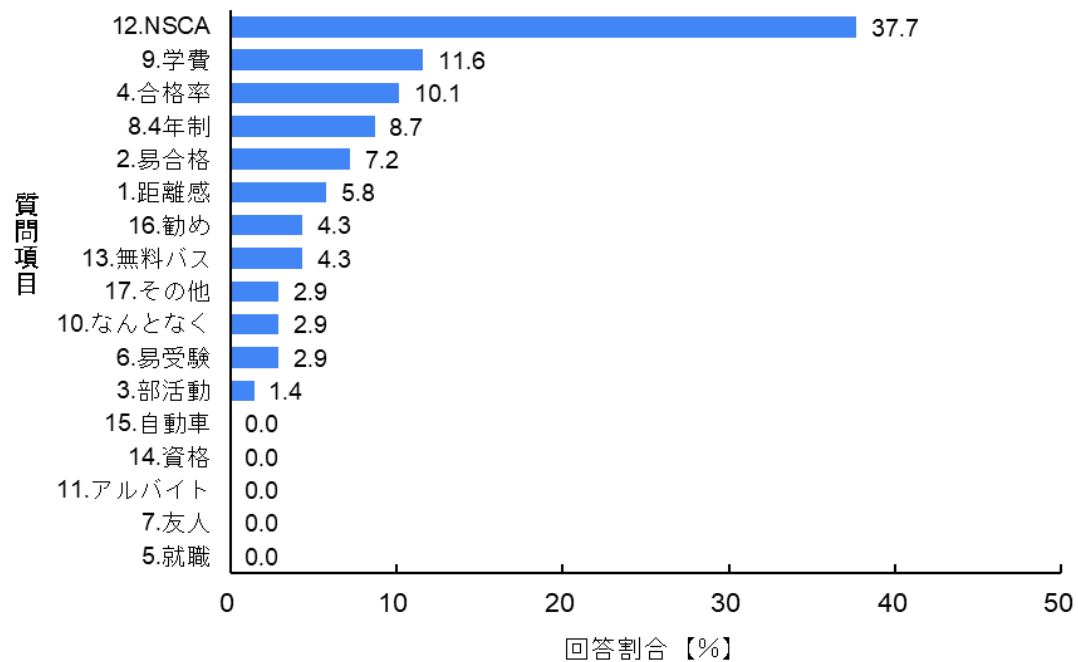


図4 入学動機の項目別回答割合(男性)

n=49

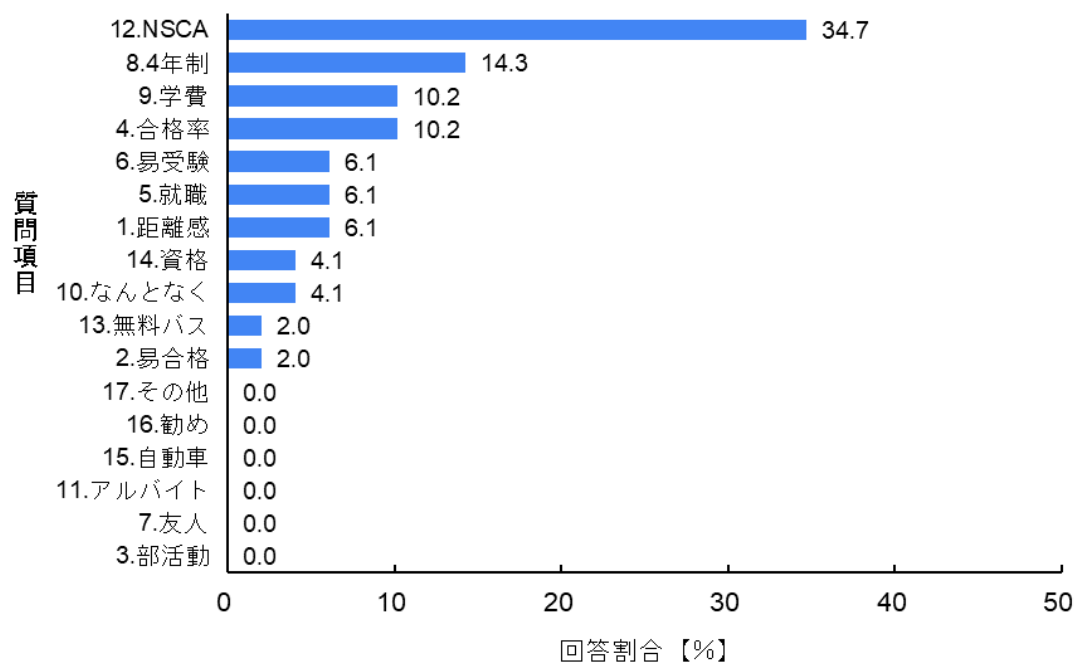


図5 入学動機の項目別回答割合(女性)

n=35

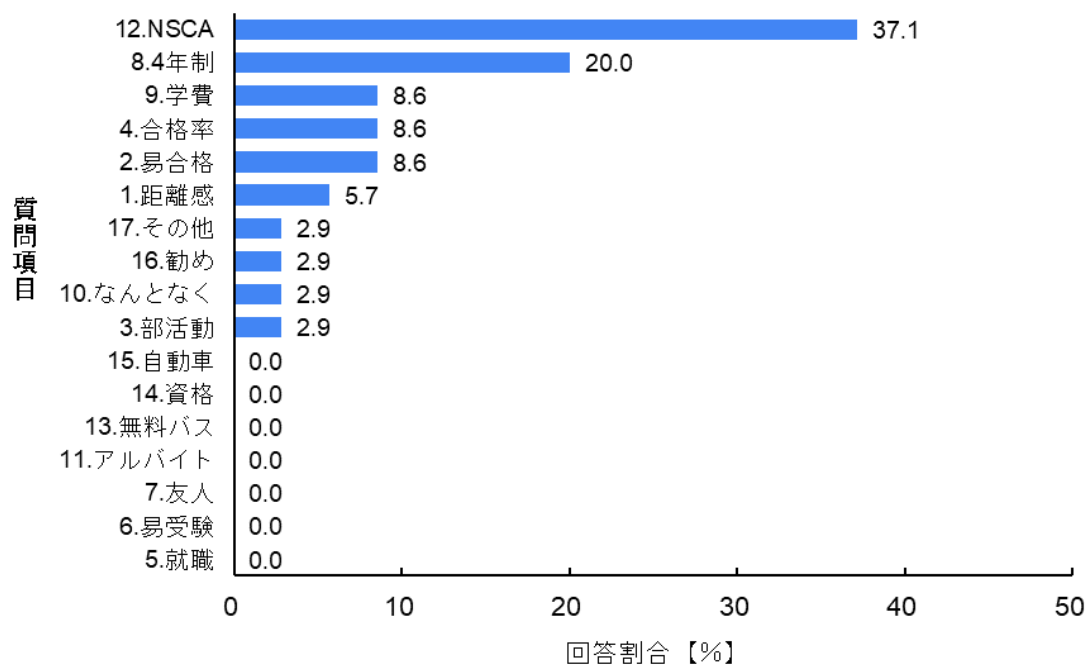


図6 入学動機の項目別回答割合(1年生)

n=35

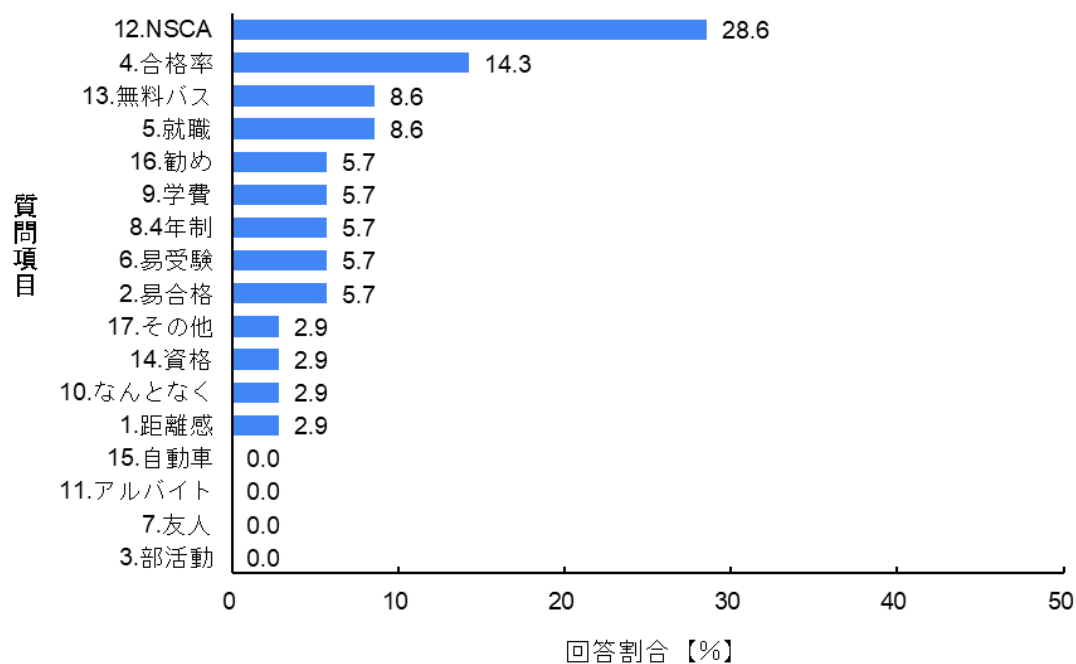


図7 入学動機の項目別回答割合(2年生)

n=25

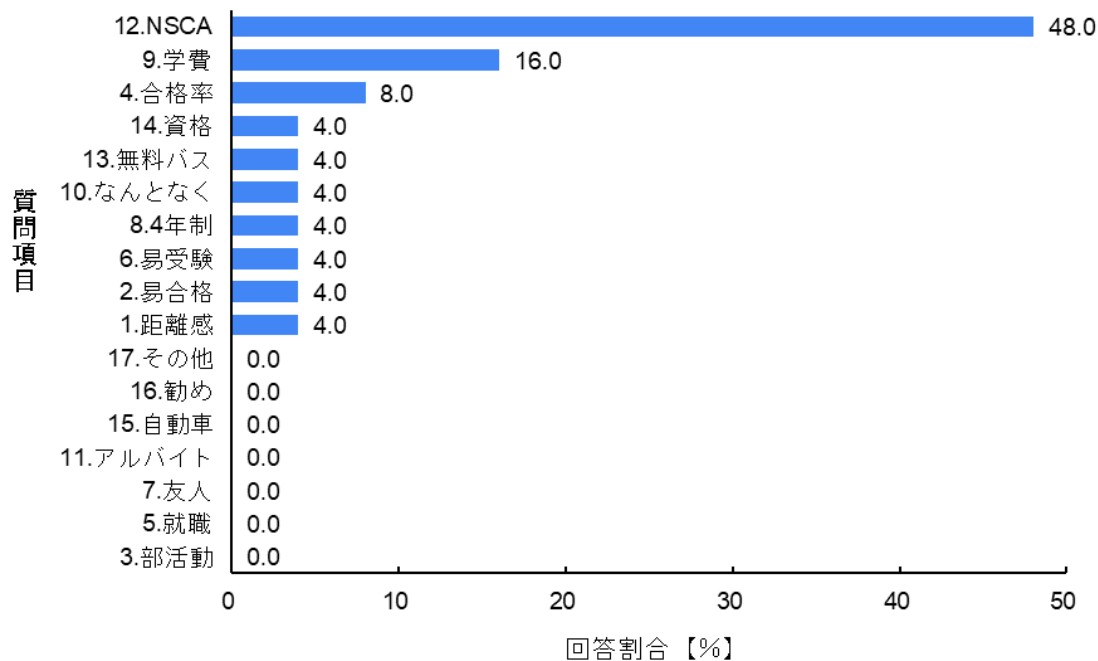


図8 入学動機の項目別回答割合(3年生)

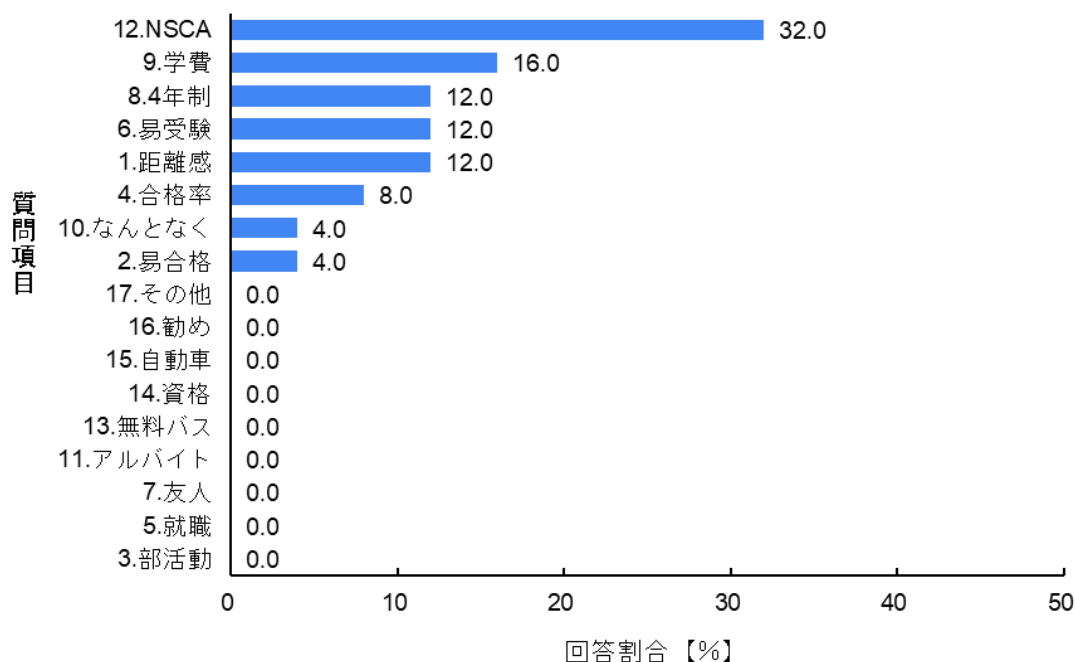


図9 入学動機の項目別回答割合(4年生)

考察

本研究は当校理学療法学科の在校生の入学動機を調査することで、NSCA 導入の影響を量るとともに、今後の学生確保の方策を探ることを目的としたものである。この度の調査では、「入学を決めたもっとも当てはまる動機」として、解析対象者全体で質問項目 12 の NSCA (NSCA 認定トレーナー資格が取得できる) を選択した者が多数を占めた。また、性別、学年に関わらず、その傾向は同じ結果となった。これらのことから、当校理学療法学科における NSCA 導入は、2020 年度からの入学者数増加に寄与した可能性が示唆された。

スポーツ関係の進学先においては既知の業界内の情報に加え、進学ガイダンスやオープンキャンパスなどで高校生ニーズが高いことは承知事項であった。また、2017 年の理学療法学科学部生の興味がある分野・領域を調査した研究においても、最も興味がある専門領域は 3 年生まではスポーツとなっており、スポーツに興味を持って入学する学生が圧倒的に多い結果となっている⁴⁾。さらに、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催により世間のスポーツへの関心が向上し、これを踏まえて国も 2022 年 3 月に第 3 期スポーツ振興計画を示した⁶⁾。この計画では持続可能な国際競技力の向上、スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保などを重点施策としており、加えてさまざまな業種がスポーツに参画し、アスリートやスポーツをする人を支援する体制を整えることも施策の 1 つに示されている⁶⁾。こういった社会背景もあり、当校の W ライセンス (理学療法士と NSCA 認定スポーツトレーナー) 取得を目指すカリキュラムが、少なからずスポーツ領域に興味

のある高校生たちのニーズと合致した結果、入学者が増加に転じた要因の1つになったと推察する。

一方で、今回の調査結果からはNSCA以外の項目で目を引くほど突出して高い回答割合の動機は見受けられなかった。その中でも、全体および性別・学年別で高い傾向であった項目は、学費（他校と比較して学費が安い）、4年制（4年制で高度専門士の称号取得）、合格率（全国平均と比較して国家試験合格率が高い）の3項目であった。学納金については、以前より当校の広報活動においてその安価さを謳ってきたが、近年、岡山県内や近隣の大学、4年制専門学校においても当校と同等かもしくはそれ以下の金額を設定している学校が散見されるようになった。さらに、自治体からの補助金を活用している学校もあり、当校の現状の学納金額ではコスト面で以前のようなアドバンテージがあるとは言い難く、これだけで入学動機に結び付けるのは難しくなるだろう。また、4年制カリキュラムについても全国で大学が増えている昨今、学士称号を取得した理学療法士は珍しくなくなり、今後は4年制専門学校（高度専門士称号取得）のメリットがぼやけてくる。反対に、3年制専門学校のメリット（より早く臨床現場に出ることができる、学費を安く抑えることができる）が際立つ可能性もあり、4年制そのものが入学動機にポジティブな影響を与えることには疑問符が付く。合格率については言及するまでもないが、本丸である理学療法士国家試験の合格率の水準を維持することは、今後の広報活動においても優先度の高い必須事項である。しかし、「全国平均を上回る合格率」というアピールも、他校との差別化という観点からはインパクトに欠ける内容であり、主たる入学動機にはならないかもしれない。

今回の調査によって、2020年度からの入学者数増加に関してNSCA導入に一定の成果があったと推察できた。近年の各スポーツ競技の日本代表の活躍や、地域でのプロスポーツ活動の浸透もあり、今後も高校生のスポーツ領域への進学希望のニーズは変わらないだろう。今後も引き続きスポーツ領域への進学を志望する学生を確保するためには、これからのスポーツ領域における理学療法ニーズの展望を広報し、さらにはスポーツと理学療法の関わりについて情報整理や積極的な発信の必要性を感じる⁶⁾。このような広報活動によって、スポーツ領域へ興味を持つ高校生の裾野を広げることも肝要である。

一方で、本研究では懸念事項も明らかになった。すなわち、NSCA以外で主たる入学動機となり得るインパクトのある項目が見当たらないということである。現在、NSCAジャパン認定校は全国で大学が22校、専門学校が11校となっている⁷⁾。前述したように、これからも高校生のスポーツ領域への進学ニーズは変わらないと考えられ、今後はNSCA認定校の増加、あるいはその他スポーツ関連の資格取得を支援する独自カリキュラムを配置した学校の増加も十分考えられる。これからもWライセンス取得を売りにするのであれば、当校としてはNSCA認定トレーナーの高い合格実績などでその質を高め、他認定校との差別化を図る必要がある。さらには、今後の学生動向を注視し、NSCAに代わる、新たに主力となり得る経営戦略を早急に模索し導入することが、安定した学生確保に不可欠であると思料する。

最後に本研究の課題と展望について考察する。今回のアンケートでは時間バイアスを考慮して回答項目を1つに限定したことで、本来複数であろう入学動機を検討する余地がなかった。自由記載を含めた複数回答とした場合、NSCA以外の項目で本結果とは違った傾向が見えた可能性もある。さらに、学校の認知度向上やイメージアップには口コミなど世

間からの評価も疎かにはできない。今後は、当校の在校生および卒業生の学校に対する満足度調査も行い、そのフィードバックから学校の客観的な印象を分析し、学生を呼び込むための戦略を検討することも必要であろう。

結論

今回、当校理学療法学科の在校生の入学動機を調査し、NSCA 導入の影響を検討した結果、以下のような知見を得た。

1. 対象者全体，男女別，各学年全てにおいて，NSCA を選択した回答が多数を占めたため，NSCA 導入は 2020 年度からの入学者数増加に寄与した可能性が示唆された。
2. W ライセンス取得を目指すカリキュラムが，スポーツ領域に興味のある高校生たちの進学ニーズと合致した結果，入学者が増加に転じたと推察する。
3. NSCA 以外で高い傾向にあった項目は，学費，4 年制，合格率であったが，いずれもインパクトに欠ける内容であり，今後も主たる入学動機にはなり得ないかもしれない。
4. 今後，NSCA においては高い合格実績などで他認定校との差別化を図る必要がある。さらには，NSCA に代わる，新たに主力となり得る経営戦略を早急に模索し導入することが学生確保に不可欠である。

謝辞

稿を終えるにあたり，本研究に快く協力していただいた学生の皆様や関係者の方々に深く感謝申し上げます。

文献

- 1) 厚生労働省：令和 4 年（2022）人口動態統計月報年計（概数）の概況。厚生労働省ホームページ（PDF ファイル），<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai22/index.html>，（2023-06-07-14:34 参照）
- 2) リクルート進学総研：18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向。リクルート進学総研マーケットレポート 2022（Vol.106 2023 年 2 月号），https://souken.shingakunet.com/research/pdf/202302_souken_report.pdf，（2023-11-14-13:10 参照）
- 3) 谷口奈瑠美：本校理学療法学科のスポーツトレーナー資格取得に向けた新しい取り組み。玉野総合医療専門学校紀要 15 巻：48-55，2020
- 4) 石坂正大，久保 晃，金子純一郎他：理学療法科学部生における興味のある専門分野の縦断的研究。理学療法科学 32 巻 5 号：627-630，2017
- 5) 三保紀裕，清水和秋：大学進学理由と大学での学習観の測定。キャリア教育研究 29 巻：43-55，2011
- 6) 廣重陽介，加藤 基：スポーツ領域におけるこれからの理学療法のニーズ。理学療法学 50 巻 4 号：167-174，2023
- 7) NSCA ジャパン：NSCA ジャパン認定校。NSCA ジャパンホームページ，https://www.nscjapan.or.jp/03_educate/erp.html，（2023-11-14-14:40 参照）